

2020年10月19日

企画戦略室

## 「若手による若手のための学会革新WG」の設置について

2019年度第7回理事会で承認された企画戦略室配下の課題検討WGについて、企画戦略室で議論の結果、第一弾として以下のワーキンググループを設置することを2020年10月19日の理事会で報告しました。

### 1. 設置する課題検討WG名

「若手による若手のための学会革新WG」

### 2. 活動内容

5～10年後も信学会の幹であり続ける分野、あるいは将来の幹となる新分野で活躍中もしくは活躍が期待されるミレニアルあるいはZ世代のメンバーの若手～中堅が中心となって、若手の目線で信学会を見直す。学会革新に資するWebシステムなどの試作・試運用や、若手に有益なサービスの試行を通じて得られた知見を理事会に提言する。活動はソサイエティを横断し実行する。

(活動の具体例：詳細はWG設置後、メンバーで議論の上、企画戦略室承認を経て決定)

- ・信学会の現状調査、他学会や海外学会、その他団体の調査
- ・専門家を招いた意見交換会
- ・若手世代から見て必要・不要と思われる機能の提示
- ・上記に対応する制度やルールの変更提案
- ・若手にとって有用なサービス提案  
(海外研修先/海外連携先仲介、公的資金獲得支援、難関論文誌・会議論文執筆支援)
- ・新たな制度とルールで運用可能な特例的な組織によるトライアル
- ・上記活動に必要なWebシステムなどの試作・試運用
- ・WG活動で得られた知見に基づく理事会への提言
- ・トライアルから本活動に移行できると判断される時点で最終報告を行い活動終了

### 3. 体制

リーダー：石橋 功至（電通大）

メンバー：児玉 親亮（キオクシア）、齋藤 健太郎（東工大）、中谷 圭吾（三菱電機）、  
高前田 伸也（東大）（今後15名程度に増員予定）

コーディネーター：亀田 卓（東北大）、新熊 亮一（京大/企画戦略室）

#### 4. 予算

100 万円（2020 年度） Web システムなどの試作や講師招聘などに活用する。

#### 5. WG 活動期間

2020 年 10 月～2022 年 9 月（2 年間）

#### 6. 本 WG 設立の背景

米国や中国の巨大 IT 企業の台頭などに代表されるように、電子情報通信分野にとっては激動の時代である。本会はこの時代に遅れることなく、さらにリードする立場にある学会である。そのため、本会は時間軸をもっと先の未来へとシフトした学会（=未来志向の学会）へと自らを革新する必要がある。5~10 年後に電子情報通信分野で中心となるのは現在の若手世代（ミレニアルあるいは Z 世代）であり、将来の本会は彼らの視点で価値ある学会となっていなければならない。例えば、本会が海外研修先/海外連携先仲介、公的資金獲得支援、難関論文誌・会議論文執筆支援といった若手を飛躍させるサービスを提供できるようになれば、未来志向の学会と言えるようになるかもしれない。今回設立する「若手による若手のための学会革新 WG」のミッションは、本会を若手目線で見直しトライアルを実践し、未来志向の学会への革新の道を切り拓くことである。

なお、2017 年 9 月ソサイエティ大会において企画戦略室により企画された「信学会のリ・デザイン」を振り返ると、会員数(特に産業界)の減少の原因として、情報収集は Web でことたりる、業種間交流がない、査読プロセスによるお墨付きの価値が低下、海外学会の方が評価が高い、若い研究者を育てられていない、といった点が課題として挙げられていた。また、研究専門委員会の数が多すぎて人的リソースが不足している上、多くをボランティアに頼っていることも課題である。そこで、1. セミナー充実、2. 異業種の連携促進、3. 若手研究者のデビューの場、4. 国際学会・論文の質向上という 4 つのシナリオが検討されることになった。本 WG の活動はシナリオ 3 と 4 をカバーしており、さらにシナリオ 1 や 2 への波及効果も期待できる。

以上